

# CASBEE® 京都-新築

# 標準システム

■使用評価マニュアル：CASBEE京都-新築（2011年版）|使用評価ソフト：CASBEE京都-新築2011(v.1.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	総合高度先端医療病棟	階数	地上8F 地下1F
建設地	京都府京都市	構造	RC造
用途地域	第1種中高層住居専用地域	平均居住人員	1,158 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2013年3月8日
敷地面積	79,851 m <sup>2</sup>	作成者	㈱内藤建築事務所
建築面積	4,206 m <sup>2</sup>	確認日	2013年3月15日
延床面積	22,708 m <sup>2</sup>	確認者	㈱内藤建築事務所



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.4

**Q1 室内環境** Q1のスコア = 3.5

**Q2 サービス性能** Q2のスコア = 3.6

**Q3 室外環境 (敷地内)** Q3のスコア = 3.1

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 3.3

**LR1 エネルギー** LR1のスコア = 3.5

**LR2 資源・マテリアル** LR2のスコア = 3.5

**LR3 敷地外環境** LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <p>本病棟の敷地南側は住宅に近接するため、近隣への配慮を図ることが最も重要であると考え、建物配置は極力北側に設けた。また、建物内においても、ゆとりのある空間造りに努め、日常的にストレスを感じさせない建物とした。</p>	<p><b>その他</b></p> <p>原則、連続バルコニーを設けることでメンテナンスを容易にし、長寿命化を図った。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>複層ガラスの採用、廊下と居室間における遮音対応（グラスウールt=50充填）など、音環境において十分な配慮を行った。また、複層ガラスの採用により熱貫流の低い計画とした。患者利用室の天井高さをCH=2500に設定し、ゆと</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>利用者の多いEVホールなどはCH=2700とし、廊下は突当りは窓を設けたオープンエンドとし心理的ストレスの排除に努め、快適な病棟づくりを行った。また、鉄筋コンクリート造とし、構造躯体の長寿命化に配慮した。</p>	<p><b>Q3 室外環境 (敷地内)</b></p> <p>建物配置は極力北側に設け1階～8階の病棟は地階よりセットバックし、近隣に対する威圧感などを与えないよう配慮を行った。また、敷地内においてはリハビリテーション部門の屋上部分（1F）に緑化し敷地内環境の向上に努</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>光庭を設け、自然採光・自然換気を積極的に行った。また、屋上庇部分に太陽光発電パネルを設置し、電力負担軽減を図る計画とした。</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>内外装材および電設用ケーブルなど、エコマーク取得材料を積極的に採用した。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>建物配置は南側隣地から適切な距離を確保するよう配慮し、照り返しによる光・熱反射を起こさないよう配慮した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される